

幻の歯科診療棟

鹿児島大学名誉教授 鳥居光男

写真の模型を覚えておられるでしょうか。実物を見たことのある方はそれほど多くはないでしょう。10年前の歯学部創立30周年の時に歯科担当副病院長として書いた一文にも載せたので、見覚えのある方もおられるかと思う。

10年前の平成20年度から始まった鹿児島大学病院の再開発で最初に文科省から認められた計画を模型にした物である（三桁万円つまり100万円以上かかったと聞いている）。今の計画とは似ても似つかない。再開発計画は二転三転（いや、もっとかな）して今の計画になっているので、こんな没になった物の話をしても仕方が無いが、こんなこともあったのだ、これからは何が起るか分かりませんよということだ。

平成16年4月の国立大学の独立行政法人化に先立ち、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院は統合された。これの一番の目的は医学部の念願である病院再開発である。ただ、当初のツインタワーを中心とした全面建て替えの壮大な計画は国の財政が許さず、結局認められたのは3棟（写真2で黄色の印の付いた新中央診療棟、新病棟、新外来棟）の増築と既存施設の改修という写真1の計画であった。そして何を隠そう、この新外来棟こそ歯学部の外来診療棟になる予定であった。1階は下駄履き、2・3階全部が歯科になる。現在の歯科と比べると床面積はずいぶん狭いが（9,000㎡→3,600㎡）、現在の外来診療室の面積はほぼ確保されている。再開発が始まった頃、私は歯科担当副病院長を務めていた（平成17~21年度）。この頃は国立大学病院の再開発があちこちであり、いくつかの歯学部では再開発後は歯科単独の建物はなくなり医務建物の一部に統合されると言うことが起こっていた。国立大学歯学部長附属病院長会議などで、鹿児島大学病院の計画を話すと、「鹿児島大学は良いですね。でも気をつけなさいよ」、などと言われていた。

再開発の第1歩である新中央診療棟の建設が進み、次の新病棟の設計が話に上がってきていた頃かと思うが（退職後数年経つと昔の細かいことをどんどん忘れる）、新外来棟と新病棟との間を緊急車両が通れないので新外来棟は建てられない（こんな事は建築関係の



写真1



写真2

方々にとっては常識で分かっていることと思うが・・・）と言うような理由で歯科の外来診療室は現在の医務の中に作るということになり、歯科外来棟の新築はあえなく夢と消えた。

新病棟にしても模型にあるような中央吹き抜けの変形D型のような建物から何の変哲も無い直方体の建物に設計変更され、さらに建築後現在の医科病棟と連結しようとしたが耐震強度が違いすぎることから連結できず（これも建築関係では常識なのでは）、計画が大幅に見直され全面建て替えとなった（戦略的？）。

病院のウェブページではA棟の完成は平成35年度となっている。10年前にも移転は8~9年先と書いていた。これからもいろいろな問題が降りかかってくると思うが、頑張ってください。